

船井情報科学振興財団 留学報告書

第 3 回: Lent & Easter Term 2021-22

Funai Overseas Scholarship 2021 年度奨学生
磯部知弥

2022 年 6 月

1. はじめに

2021 年度奨学生として、2021 年 10 月からケンブリッジ大学博士課程に進学した磯部知弥と申します。本報告書では、前回の報告書以降の半年間の経過を報告致します。

2. 研究

引き続き bioinformatician として、ラボの保有する様々な（主にマウスモデル由来の）シーケンズデータを解析する形で仕事をしています。日本での経験上、wet-lab 実験や患者さん由来の検体を扱うデータ解析では、細胞・動物の準備や患者検体・数の確保など、自分では早められない待ち時間が発生することも多かったですが、現在の役割においては、すでに膨大なデータが手元にあり、新たな手法を勉強しながら実践する自分自身が常に律速になっている感覚があります。基本的には努力量と進捗が比例するため、ひとつひとつのタスクに割いた時間と結果を把握しながら、良いモチベーションで進められています。

成果面では、日本で行っていたプロジェクトが現在のラボの協力を得てさらに発展・完成し、論文投稿中であるほか、結果が集まってきたメインプロジェクトについても、9 月に Edinburgh で開催される国際実験血液学会 (International Society for Experimental Haematology) へ演題提出することができました。無事採択されれば、次回報告書で学会の参加報告もしたいと思います。

またケンブリッジの PhD programme では、1 年目は仮学籍 (probationary period) とされ、1 年目の終わりに First Year Report の提出と Viva があるため、少しずつ準備しています。こちらの報告も、次回の報告書でできるのではないかと考えています。

3. 生活

前回の報告書では、オミクロン株の流行のため規制がまた少し強まるかというタイミングでしたが、半年経って現在では、大学としてもマスクを屋内のマスクを必須としなくなり、研究室でも素顔で自由に会話できるようになりました。

研究所全体での networking event や、同僚宅でのバーベキュー、娘の友人の誕生日パーティーなど、私生活も制約なく楽しめる環境となってきた、留学生活の新たなスタートのような心地がしています。

4. おわりに

1年目も約9ヶ月が経ち、報告書も3回目となりましたが、面白い研究・やりたい研究ができていく楽しさを日々感じながら過ごしています。この充実した研究生活をご支援いただいている船井財団の皆様へ改めて感謝申し上げますとともに、次の報告書でもさらに良い報告ができるよう、研究に邁進したいと思います。